

あった。

若林区の会社員黒田美由紀さん(45)は、重度知的障害のある息子を育てているといい「酸素チューブとアークセサリーを組み合わせた製品があり、ポジティブに過ごせると感じた」と語った。ハローの佐々木康尊理事(49)は「福祉用具は子どもができることを増やし、目標をかなえるためのもの。選ぶ楽しみも味わってほしい」と話した。午前9時半〜午後5時。入場無料で申し込みも不要。

子ども向けの

福祉用具展示

福祉大東口キャンパス

障害がある子ども向けの福祉用具を紹介する「トウホク・キッズ・ドリーム・フェスタ」が29日、仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパスで始まった。最新型の車いすやバギーなどが多数展示され、利用体験やセミナーを通して来場者が理解を深めた。30日まで。

障害児と家族のコミュニ

ティづくりに取り組みNPO法人ハロー(富谷市)が初めて開き、車いすなどの製造販売や医療的ケア児の支援に取り組む57の企業や団体が出展。嚙下障害者も楽しめる食事や、会話が困難でも、情報通信技術(ICT)を活用して意思表示するツールに関する講話が



小児用車いすの使い心地を確かめる来場者